



散歩道

令和元(2019)年8月28日発行

加西市人権啓発だより
加西市ふるさと創造部人権推進課
加西市北条町横尾 1000 番地
☎ 0790-42-8727

第 10 号

子どもへの「しつけ」を名目にした虐待が後を絶たないことから、児童虐待防止法と児童福祉法の一部が改正され、親の体罰禁止が 2020 年 4 月から適用されることになっています。

今年度のまちかどフォーラムでは「子ども・若者の人権」をテーマに、人権啓発ビデオ「君が、いるから」の視聴と意見交流を実施しています。

話し合いでは、「子どものためだから」や「子どもの将来を思って」など親や大人の立場としての思いが出されています。また、個人情報保護や核家族化から疎遠社会になり昔のような近所づきあいが薄れているように感じるなど問題点も話し合われています。地域社会のつながりを見直すことで住みよいまちにしていこうという意見交流が盛んに行われています。

また、市民への人権啓発においても、去る 8 月 18 日に「人権文化をすすめる市民のつどい」を開催し、市内の子どもたちが作った人権ポスター優秀作品の表彰と人権講演会を催しました。講演会では、MTF トランスジェンダーで弁護士の仲岡しゅん氏より「これが私の生きる道～性とは？自分らしさとは？ジェンダー、セクシャリティの人権課題～」と題して、LGBT とは、少数者の人権を守るためには、というお話を自分の体験を交えてしていただきました。



◆夏休み太鼓づくり教室 <太鼓づくり&人権講話> 7月27日実施 於：南部公民館

十八代目太鼓屋六右衛門たいこやろくえもん (杉本 大士すぎもと たいし) 講師の指導の下、20 組の小学生と保護者が、牛の命、木の命、職人の命を交えて命の大切さについて考えながら太鼓づくりに取り組みました。

また、参加した小学生は、周囲への感謝を忘れないように、思った時には、すぐ気持ちを言葉に表現をすることが大切だと教えて頂きました。



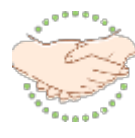
◆サイサイシネマ <サイサイまつりとの連動事業> 8月4日実施

アスティアかさい多目的ホールにおいて、3 本の映画を上映し、幅広い世代に人権について学ぶ機会を提供しました。 ※「君が、いるから」と「カラフル」は貸与可能です。

- ・「カラコエの花」… 高校で唐突に行われた『LGBT について』の授業が発端になった「性的マイノリティー」の人権について考える映画です。
- ・「君が、いるから」… 「子ども・若者の人権」について考える DVD です。令和元年度兵庫県推奨 DVD、子どもの命、若者の希望や幸せについて考えます。
- ・「カラフル」… 「家庭の中の人権」について学ぶ映画です。両親と人生の巣立ちを迎えた子どもたちの会話を通じて家庭の中にある人権課題を取り上げています。



主な人権啓発事業



★地区人権学習会（3年間で2回） 9月・10月 開催

地区ごとの人権学習会です。

- ・地区人権学習A 講話中心の講演会です。（下里・富合・西在田・在田）

講師：三木市人権・同和教育協議会 人権教育・啓発専門員 ひがしだ としひろ 東田 寿啓 氏

- ・地区人権学習B 音楽(ギターと歌)を交えた講演会です。（北条・富田）

講師：兵庫県人権啓発協会研修講師 たかた みつひろ 高田 光裕 氏

★「まちかどフォーラム」（3年に1回） 7月～10月（賀茂・九会・多加野）

開催予定の町ごとに人権について学習します。今年の推奨テーマは、「子ども・若者の人権」、推奨映画は「君が、いるから」です。町ごとにテーマと映画を選定し、順次実施しています。

本年度の作品「君が、いるから」では、母親からの心理的虐待に悩む若者が、生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い若者として描かれています。また、幼い子どもが心理的な虐待やネグレクトを受けている状況も描かれています。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者がもしかすると身近にいるのではと気づかされる内容です。子どもや若者がいる家庭にはぜひ見ていただきたい作品です。

身近な人権問題

人権にかかわる身近な話題を提供します



■アイヌの人々の人権問題■

ヨーロッパで移民に対する迫害が深刻化したり、トランプ政権の誕生によって人種間の対立がクローズアップされたりする今日、我が国においては、アイヌの人々に向けられる差別については、十分に注意を払っていかねばなりません。

古代、数万年前に南からやってきたモンゴロイドが琉球や日本列島、樺太（サハリン）、千島列島に定住し縄文文化を育んできました。そして弥生の頃に北方の多くのモンゴロイドが朝鮮などを経て日本にやってきて急進化し、弥生・古墳文化を広めていきます。これが和人、つまり「日本人」であるといわれています。そして、これらの影響を受けずに小進化してきたのがアイヌ民族であり、琉球の人々であるとされています。

アイヌの人々は、固有の言語や伝統的な儀式・祭事、多くの口承文字(ユーカラ)等、独自の豊かな文化を持っていますが、明治以降の同化政策により、狩猟を禁止され、土地を奪われ、日本語を使うことを強制されるなどの政策が実施されました。それ以降、アイヌの人々は生活の基盤や独自の文化を奪われ、貧困にあえぎました。また、アイヌの人々に対する理解が十分でないため、就職や結婚等において偏見や差別が依然として存在しています。

アイヌの人々に対する差別をなくすためには、正しい教育と啓発と同時に、アイヌ文化の振興と経済など、様々な対策が必要です。そしてそのことは、私たちが新たな共生の時代を築いていくために、絶対に不可欠な条件なのです。

※人権啓発の各事業参加者アンケート結果等は、加西市ホームページに掲載しています。

（トップページ→「暮らす」→「安全安心のまちづくり」の「人権教育・啓発活動」→「啓発活動」へ）

※表題「散歩道」という名称は、平成13（2001）年度まで人権啓発冊子で使用されていました。